

板橋公園基本構想の策定について

板橋公園及び旧大山小学校跡地の一体的な活用を図るため、整備に向けた基本構想を策定したので、報告する。

1 目 的

板橋公園は、子どもたちの交通教育のため昭和43年に開園したが、施設が老朽化していることに加え、敷地を拡張(旧大山小学校跡地)することもあり、新しい交通公園として再整備することとした。再整備の方向性を示すとともに、P-PFI(公募設置管理制度)等の民間活力手法導入検討の基礎とするため、板橋公園基本構想を策定する。

2 基本構想の概要

(1)板橋公園基本構想 再整備のコンセプト

キーワード「交通・交流・みどり」

【交通】“散歩からパーソナルモビリティまで、移動を楽しむ交通公園”

【交流】“だれもが、多様な楽しみ方ができ、交流が生まれる公園”

【みどり】“みどりと花と交通が溶け合う風景を、区民と共につくる公園”

(2)再整備を進める上で目標にする事項

- ・区民や地域との連携
- ・ユニバーサルデザイン
- ・環境負荷の低減

(3)ゾーニングのイメージ

目的や機能に合わせた3つのゾーンとし、各ゾーンを回遊できる散策路で結び、“交流が生まれる交通公園”とする。

- ・乗り物と集いのゾーン
- ・みんなのひろばゾーン
- ・いこいと遊びのゾーン

(4) 主な公園施設

- ・乗り物(自転車、パーソナルモビリティなど)の周回コース
- ・自転車の練習スペース
- ・交通教育施設(信号、横断歩道など)
- ・ひろば
- ・防災施設
- ・その他

集会所、管理棟、飲食や物販の施設、遊具、水遊び施設、便益施設、駐輪場など

□ゾーニングのイメージ図



3 策定の経緯

令和3年度

- 9月15日 近隣アンケート調査
- ～10月1日 (近隣500世帯配布 →回答170件)
- 10月26日 板橋公園基本構想策定庁内検討会(第1回)
- 11月10日 板橋公園のあり方検討委員会(第1回)
- 11月22日 素案アンケート調査
- ～12月6日 (近隣500世帯配布＋区施設配布＋近隣保育園配布
＋WEBアンケート →回答108件)
- 12月13日 板橋公園基本構想策定庁内検討会(第2回)
- 12月20日 板橋公園のあり方検討委員会(第2回)

4 今後のスケジュール

- 令和4年度 民間活力導入手法(P-PFI等)の検討、基本計画策定、ワークショップ
- 令和5年度 基本設計、実施設計
- 令和6年度 工事
- 令和7年度 工事

板橋公園基本構想

令和4年1月

板橋区 土木部 みどりと公園課

～ 目 次 ～

■ 基本構想策定の経緯	1
■ 公園の種別と誘致圏	1
■ 城北交通公園	2
■ 敷地の拡張と道路の付け替え	2
■ 板橋公園基本構想	
再整備のコンセプト	3
テーマ①【交通】	3
テーマ②【交流】	3
テーマ③【みどり】	4
各テーマ共通	4
ゾーニングのイメージ	5
■ 基本構想の策定経過	7

■ 基本構想策定の経緯

板橋交通公園（正式名称：板橋公園）は、子どもたちの交通教育のために、昭和 43 年（1968 年）に開園し、50 年以上に渡り区民の皆様が親しまれてきました。しかし、施設が老朽化していることに加え、敷地を拡張（旧大山小学校跡地）することもあり、新しい交通公園として再整備をすることになりました。この準備として、区民の皆様へのアンケート調査、板橋公園のあり方検討委員会からのご意見等を踏まえ、「板橋公園基本構想」を策定しました。

■ 公園の種別と誘致範囲

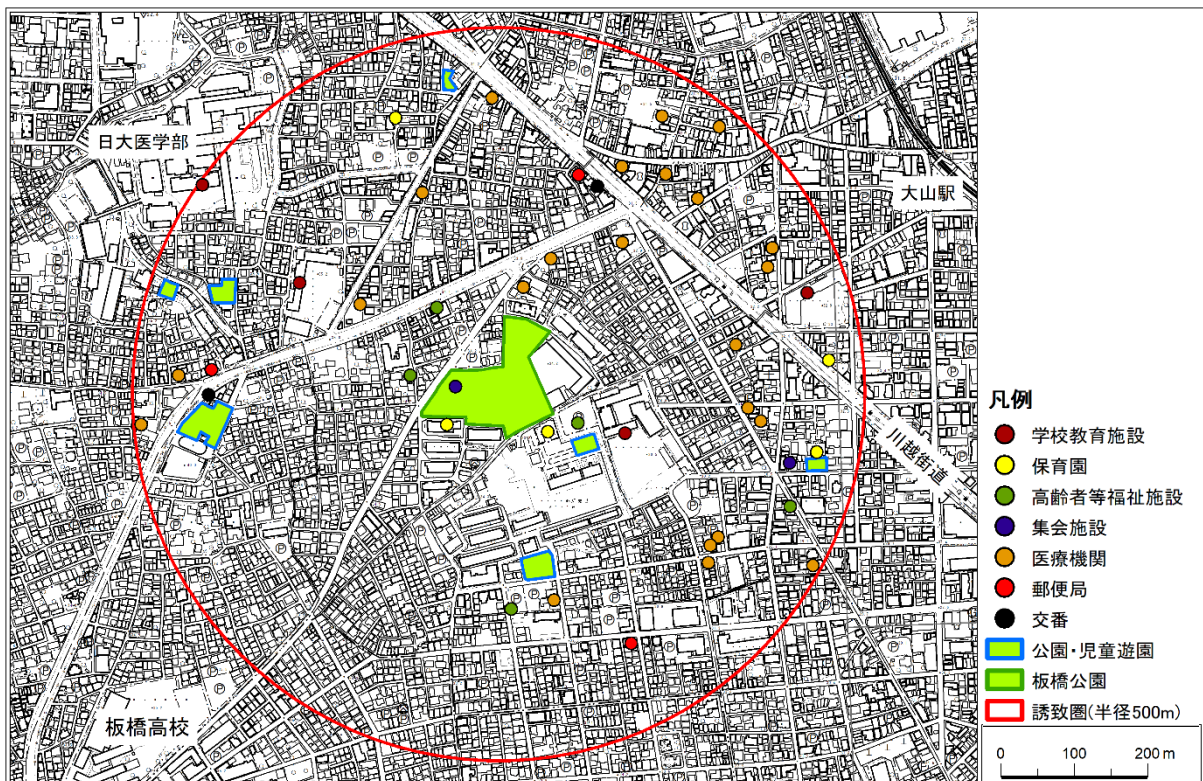
【日常的な公園としての誘致範囲】

板橋公園の面積は 1.4ha（拡張区域を含む）で、これは歩いて行ける公園の中では近隣公園に相当します。近隣公園は半径 500m 圏内の人々が日常的に利用することを想定しています。

【交通公園としての誘致範囲】

板橋公園は、区内に 2 か所設置している交通公園（交通公園設置運営要領 昭和 37 年、1962 年発行）のひとつです。交通公園は特殊な公園に位置づけられるため、区内全域の人々の利用を想定しています。

以上から、板橋公園の再整備にあたっては、歩いて行ける近隣公園としての機能と、さらに遠方からの来園も想定した交通公園の機能の、両方を満たすことを目標とします。



板橋公園誘致圏（半径 500m）及び周辺主要施設位置図

■ 城北交通公園（坂下 2-19-1 板橋区立城北公園内）

板橋区には、もうひとつの交通公園、城北交通公園もあります。こちらは昭和 44 年に開園し、SL や都バスの展示、交通資料館などの施設がありますが、乗り物の体験コーナーは規模が小さく、三輪車・幼児用補助つき自転車など、幼児を対象としています。板橋公園では、さらに幅広い年齢層を対象にした交通公園として再整備し、それぞれの特徴を活かします。

■ 敷地の拡張と道路の付け替え

隣接する旧大山小学校跡地を敷地に加え、板橋公園を拡張します。現況の道路の位置を見直し、付け替えることで、より使いやすい敷地形状とします。



公園区域の拡張及び付替え道路予定図

■板橋公園基本構想 再整備のコンセプト

「交通・交流・みどり」をキーワードに、以下のテーマを設定します。

テーマ①【交通】

“散歩からパーソナルモビリティまで、移動を楽しむ交通公園”

- 学びの場としての交通公園機能（自転車の練習や交通ルールの学習）は継承していきます。現代における様々な交通の課題に対応するため、関係する部署や団体と協力し、交通教室やイベントを開催します。
- これからは、だれもが安全で快適に移動できるまちづくりが必要です。新時代の交通公園として、子育て世代、高齢者、車いすなど障がい者の方の移動体験や、新しい多様な乗り物（パーソナルモビリティ※、自転車⁺※など）の移動体験も取り入れ、「楽しく出かけたくなる交通」を発信していきます。
- 交通や乗り物をテーマにしたデザインで公園全体をまとめ、楽しく統一感のある景観をつくります。
- 乗り物だけでなく、散歩やジョギングも楽しくなるような、回遊する園路をつくります。

※パーソナルモビリティ

徒歩、自転車、自動車の中間的な役割として、気楽に行動範囲を広げることができる乗り物を指します。環境負荷が少なく、コンパクトで小回りが利き、通勤・通学や買い物、観光、仕事での移動の利便性・回遊性の向上が期待されます。本基本構想では、その中でも低速で一人乗りの新しい乗り物を想定しています。

※自転車⁺（自転車プラス）

策定中の（仮称）板橋区自転車活用推進計画において、計画対象とする車両として定義した用語で、自転車と電動小型モビリティ（電動キックボードなどの自転車並みの速度で走行するものに限る）の両者を包括した言葉です。

テーマ②【交流】

“だれもが、多様な楽しみ方ができ、交流が生まれる公園”

- 現状では、ラジオ体操や、保育園の散歩、放課後の子どもたち、休日の家族連れなど、日常的に様々な利用がされている他、お祭りなどの賑わいを通じて人々が交流しています。
- さらに多様な使い方ができるよう、静かに憩える場所や自由な楽しみ方ができる広場などをつくります。子どもや高齢者、障がい者、外国人など、だれもが利用しやすい空間を整備します。
- 新たに飲食が楽しめるサービスや移動販売の導入を検討し、公園の楽しみ方を増やします。おしゃべりや、飲食ができるように、ベンチやテーブルを増やします。
- 区民がやりたいことを応援し、区民活動の発表の場となるように、集会施設や広場を使いやすくします。集会施設は、イベントや講習会にも対応できるような設備にします。

テーマ③【みどり】

“みどりと花と交通が溶け合う風景を、区民と共につくる公園”

- みどりの中で乗り物に乗ったり、散策したり、静かに読書をしたりと、季節の移ろいが感じられる、いやしの空間をつくります。
- 敷物をひろげられる芝生や原っぱのような、やわらかな広場も検討します。
- 板橋公園のシンボルともいえるメタセコイアや、ケヤキなどの大きな樹木は残します。
- 低木や中木の一部は見通しをよくするため整理し、花や実を楽しめる草花などを多く取り入れます。
- 公園の管理には、現状でもすでに地域の方々のご協力を得ていますが、さらに区民参加による花づくりや季節のイベントなど、楽しみながら風景を育てていく仕組みをつくります。

各テーマ共通

再整備を進める上で、以下のことを目標にします。

●区民や地域との連携

再整備の詳細については、周辺の保育園、小中学校、高齢者施設、集合住宅、商店など、地域の方々と連携しながら、進めていきます。管理や運営についても、区民が参加できる仕組みづくりなど、みんなで育てていく公園にします。

●ユニバーサルデザイン

「板橋区ユニバーサルデザイン推進計画 2025」に基づき、年齢や障がいの有無などにかかわらず、はじめからすべての人が利用可能なデザインをハード・ソフト両面からめざします。建築物やトイレ等も含めて公園全体を対象とします。

●環境負荷の低減

管理運営にあたっては、リサイクルや省エネを取り入れ、環境に配慮した公園にします。

■板橋公園基本構想 ゾーニングのイメージ

コンセプトを実現させるため、目的や機能に合わせたゾーンをつくります。

- 3つのゾーンと回遊する散策路をつくることにより、多様な使い方をする人々が集まり、「交流」が生まれる公園にします。
- 利用者の安全を確保するため、移動を楽しむ場所、静かに憩う場所、幼児と親が過ごす場所など、空間を分けることで、それぞれの利用者の動線が交錯しないよう配慮します。
- 各ゾーンの公園内の配置については、今後計画を進める中で決めていきます。

■乗物と集いのゾーン

自転車の練習や、足こぎゴーカートに加えて、パーソナルモビリティなど新しい交通体験もできるゾーンです。周回するコースと、安全に練習ができるスペースをつくります。交通ルールが学べるように、信号や横断歩道があります。また、ラジオ体操やお祭り、イベント等で人々が集える広場もつくります。

■みんなのひろばゾーン

お弁当を食べたり、散策したり、遊んだり、おもいおもいの使い方ができる広場があるゾーンです。

■回遊する散策路

散歩やジョギングなど、園内を回遊できる園路とします。歩きながら季節や風景の変化を楽しめるように、コースやデザインを工夫します。

■いこいと遊びのゾーン

ベンチで休んだり、読書したり、季節を感じながらつろげる空間と、主に幼児を対象とした遊具があるスペースを併せ持つゾーンです。

ゾーニングのイメージ図

以下は、今後計画を進めていく中で、具体的な配置や内容を検討していきます。

●集会所・コミュニティルーム

現在の集会所機能を継承しつつ、区民の活動やイベント、講習会など幅広く利用のできるコミュニティルームを検討します。

●防災施設

板橋公園は、隣接する都営幸町アパートや板橋第二中学校と併せ、一体的な避難場所となっているため、広場や防災倉庫、防災トイレなどを整備し、防災機能を高めます。

●花とみどりの空間

季節や風景の変化を感じられるように、植栽の種類や配置を工夫します。区民が楽しく参加できる、花の風景づくりに取り組みます。

●飲食・物販サービス施設

常設、期間限定、移動販売などの設置管理方法を検討します。

●その他

- ・遊具
- ・水遊び施設
- ・管理事務所
- ・トイレや水飲み等の便益施設
- ・駐輪場（ベビーカーやシルバーカー等も含む）

<板橋公園が変わります！>

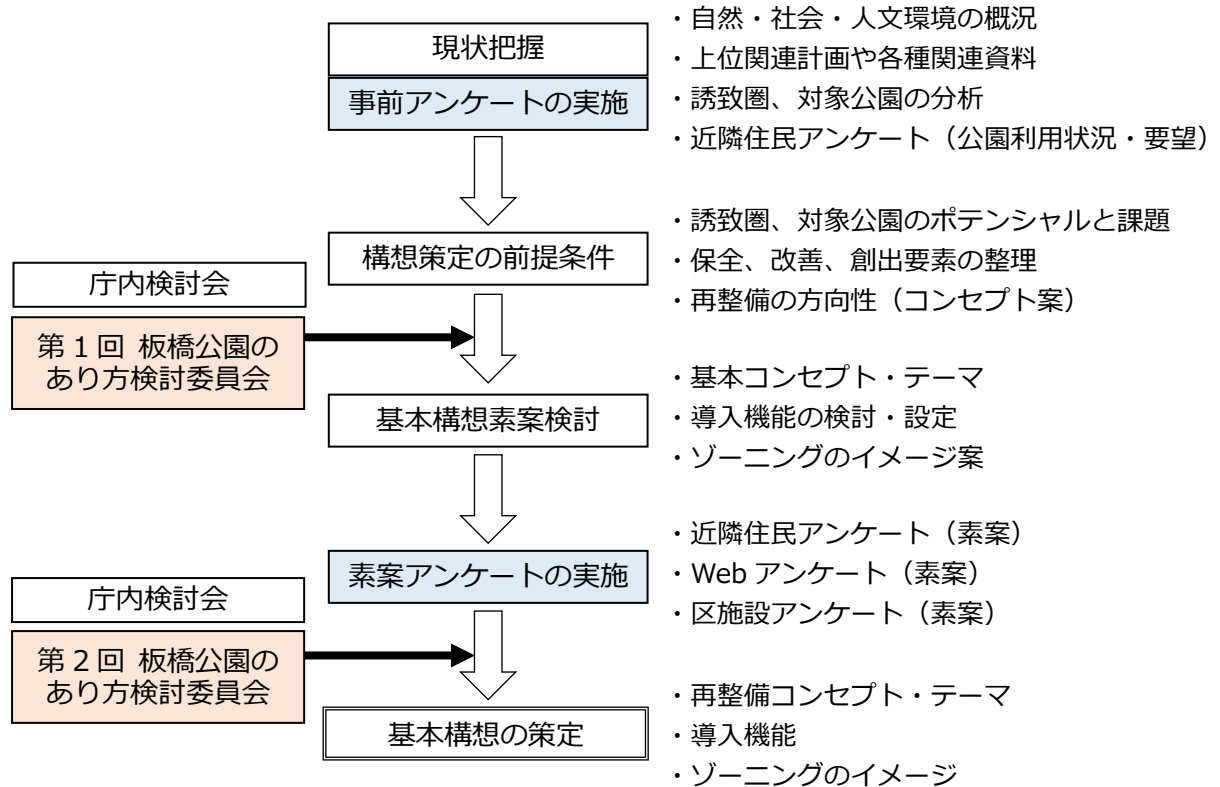


※写真は現状の板橋公園

■板橋公園基本構想の策定経過

●基本構想の策定フロー

基本構想は、次に示すフローに順じて策定しました。



●板橋公園の再整備基本構想に関するアンケート

1) 事前アンケート

「板橋公園のあり方検討委員会」開催に先立つ資料とするため、板橋公園の近隣住民を対象に要望等のアンケートを実施

期間：令和3年9月15日 から 令和3年10月1日 まで

2) 素案アンケート

「板橋公園基本構想（素案）」について広く意見を求めるため、板橋公園の近隣住民及び WEB（区ホームページ上）及び区施設の配布設置によりアンケートを実施

期間：令和3年11月22日 から 令和3年12月6日 まで

●板橋公園のあり方検討委員会

板橋公園のあり方検討委員会は、次の概要で開催されました。

開催年月日	委員会・議題等
令和3年11月10日	第1回板橋公園のあり方検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・板橋公園基本構想の策定について ・板橋公園の将来像、基本構想案について
令和3年12月20日	第2回板橋公園のあり方検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、ポテンシャル、機能の整理について（報告） ・素案アンケートについて（報告） ・素案の修正について



第1回板橋公園のあり方検討委員会



第2回板橋公園のあり方検討委員会

板橋公園のあり方検討委員（◎は委員長）

区分	氏名	所属団体等
知識経験を有する者	竹内 智子◎	千葉大学園芸学研究科 准教授
	岸井 隆幸	日本大学土木工学科 特任教授
	木村 智子	NPO 法人 GreenWorks
板橋区政策アドバイザー	斉藤 博	NPO 法人日本都市文化再生支援センター理事長
区民代表	黒坂 祐二	大山西町町会副会長